

はじめに

本県の鉄道は、お年寄りや学生など地域の方々の日常の足として欠くことのできない交通機関であり、その大量輸送、定時性、高速性などの特性から、産業の活性化や観光振興など交流人口の拡大に寄与する重要な社会資本です。

山形新幹線は、令和元年度に新庄延伸 20 周年を迎え、J R 東日本からは新型車両 E 8 系の導入や福島駅アプローチ線の新設工事が発表されました。さらに、全車両で Wi-Fi サービスが導入されるとともに、令和 2 年度には携帯電話の不感区間が解消されるなど、その機能強化・利便性向上は着実に進んでいます。

国土全体の強靱化と活力の向上、また、東北地方の一体的・自律的發展を実現していくためには、日本海側の機能強化を図るとともに太平洋側とを結ぶ新幹線ネットワークの形成が不可欠であります。

併せて、今般の新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、将来の感染症発生に備えた産業構造の多元化・分散化、テレワークや二地域居住等による分散型社会構築のための基盤としての新幹線ネットワークの重要性も高まっております。

全国の整備新幹線の整備が進む中、奥羽・羽越新幹線は未だ基本計画の段階にとどまっており、両新幹線の早期実現に向け、取組みを進めていく必要があります。

さらに、自然災害等による輸送障害が多発し、安全性や安定輸送の確保が喫緊の課題となっている福島～米沢間において、現在、山形県と J R 東日本で検討を進めている福島～米沢間トンネルは、奥羽新幹線の整備を前に進める足掛かりとなるとともに、山形新幹線の安定性や速達性の向上を通して、国土全体の強靱化にもつながる重要なプロジェクトでありますので、まずもって同トンネルの早期事業化を目指してまいります。

また、在来線についても、自然災害等に対する安全・安定輸送の確保はもとより、さらなる利便性向上や利用拡大を図っていく必要があります。

本同盟会としましては、今後、こうした課題を踏まえながら、J R 東日本をはじめとする関係機関に対し積極的に働きかけを行うとともに、連携して利用拡大に向けた取組みを進めてまいります。

結びとなりますが、この小冊子の作成に当たり、ご協力をいただきました J R 東日本山形支店をはじめとする関係の皆様へ感謝の意を表するとともに、この小冊子により、鉄道輸送に対する理解が深まることをご期待申し上げます。

令和 3 年 3 月

山形県鉄道利用・整備強化促進期成同盟会